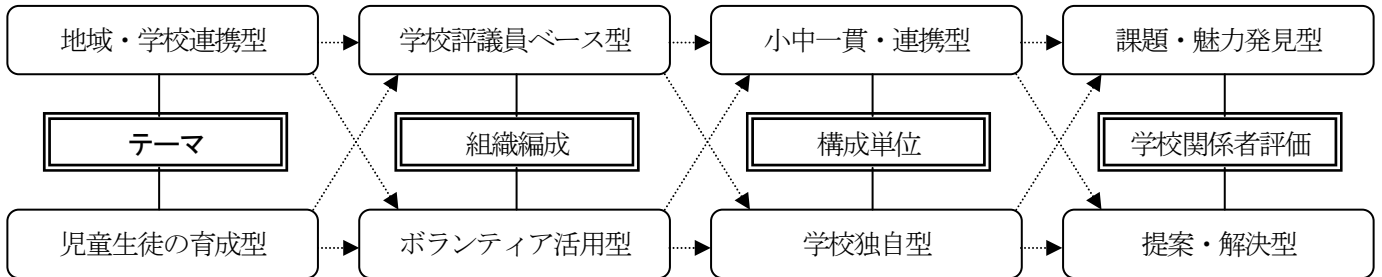


コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）と学校関係者評価

京都市教育委員会学校指導課
首席指導主事 西 孝一郎

1 学校運営協議会と学校関係者評価 ～類型化と一体化～



2 学校運営協議会の「テーマ」

(1) 地域・学校連携型

地域と学校の連携の深まりを、主なテーマとする学校運営協議会である。地域と学校が連携して、学校運営に対する意識を高めていくような活動が考えられる。

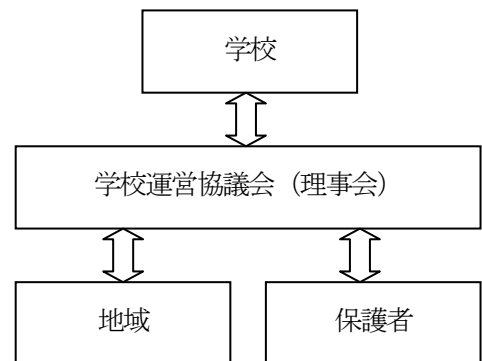
最初のテーマとして「地域と学校の連携」が設定される例は多いが、地域と学校が連携する中で児童生徒が育っていくので、結果的に「児童生徒の育成型」につながるということもある。

【「地域・学校連携型」の学校運営協議会でできることは、次のようなものである。】

- ・地域の人とのかかわりを深める体制をつくる。
- ・地域と学校が協力する取組を増やす。
- ・児童生徒が地域で活躍できる場をつくる。 など

【学校評価の視点】→保護者、地域住民等との連携

- ・学校運営への保護者、地域住民の参画及び協力の状況
- ・PTAや地域団体との連絡の充実の状況 など

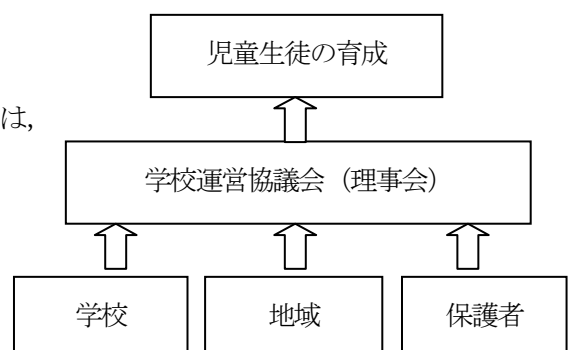


(2) 児童生徒の育成型

児童生徒の資質・能力の育成を、主なテーマとする学校運営協議会である。この場合の資質・能力としては、学力であったり、地域の人とかかわる力であったり、さまざまなものが考えられる。いずれにしても学校と地域が一緒になって考え、定めておく必要がある。

【「児童生徒の育成型」の学校運営協議会でできることは、次のようなものである。】

- ・学力向上をバックアップする組織をつくる。
- ・児童生徒の教育活動を、学校と一緒に考える。 など



【学校評価の視点】→教育課程・学習指導, 生徒指導

- ・説明, 板書, 発問等, 各教員の授業の実施方法
- ・学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況
- ・学校の教職員全体として生徒指導に取り組む体制の整備の状況 など

3 学校運営協議会の「組織編成」

(1) 学校評議員ベース型

これまでにある学校評議員のメンバーをベースに, 学校運営協議会を編成するものである。これまで実際に活動されていた方が中心になるので, すぐにできることが多い。どちらかというところ、トップダウン型の組織である。

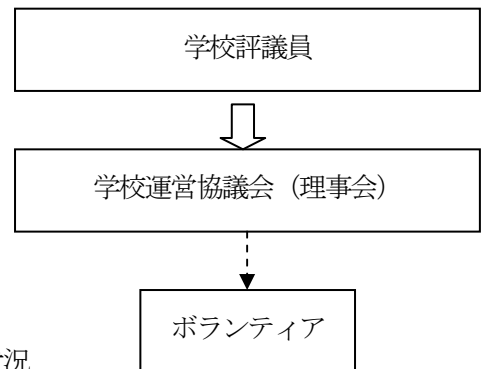
すぐにできるが, これまであったものだけに, 活動内容の違いが明確になりにくいこともある。

【「学校評議員ベース型」の学校運営協議会でできることは, 次のようなものである。】

- ・地域・保護者が, 学校と協働して学校教育にあたる。
- ・地域・保護者・学識経験者などが学校運営に参画する。など

【学校評価の視点】→組織運営

- ・校長等管理職の教育目標等の達成に向けたリーダーシップの状況
- ・校務分掌や主任制等が適切に機能する等, 学校の明確な運営・責任体制の整備の状況 など



(2) ボランティア活用型

学校支援ボランティアを活用して, 学校運営協議会を編成するものである。学校支援ボランティアとして活動する中で, 保護者・地域が学校をよく理解されていく。ボランティアの代表者等を中心に部会をつくり, その代表者が学校運営協議会をつくることが多い。どちらかというところ、ボトムアップ型の組織である。

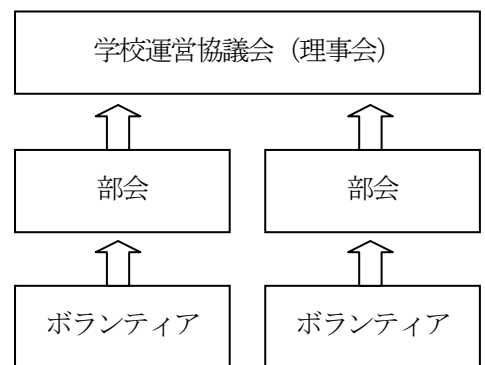
子どもに直接かかわることが多く, 成果が見られやすいが, 学校運営についての意識が高まらないこともある。

【「ボランティア活用型」の学校運営協議会でできることは, 次のようなものである。】

- ・学校支援ボランティアの活動をコーディネートする。
- ・学校と一緒に, 教育活動を企画し実施する。 など

【学校評価の視点】→保護者, 地域住民等との連携

- ・地域の自然や文化財, 伝統行事等の教育資源の活用状況
- ・授業や教材の開発に地域の人材等外部人材の活用状況 など



4 学校運営協議会の「構成単位」

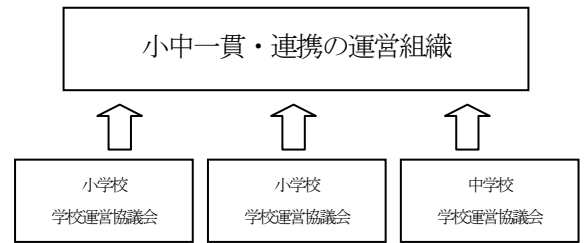
(1) 小中一貫・連携型

複数の小中学校が連携して, 学校運営協議会を運営するものである。学校支援地域本部事業からの発展ができやすく, 小中一貫教育とのかかわりも深い。

小中学校の連携はできやすいが, 子どもにかかわる活動が設定しにくいこともある。

【「小中一貫・連携型」の学校運営協議会でできることは、次のようなものである。】

- ・小中一貫教育で目指す子ども像を明確にする。
- ・小中学生の連携を密にする。 など



【学校評価の視点】→教育課程・学習指導, 生徒指導

- ・幼小連携, 小中連携等, 学校間の円滑な接続に関する工夫の状況
- ・保護者や地域社会, 関係機関との連携協力の状況 など

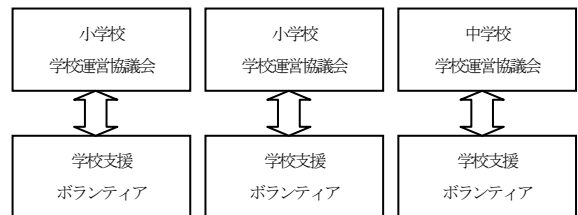
(2) 学校独自型

各学校（幼稚園）独自で、学校運営協議会を設置するものである。学校運営協議会の立ち上げには、比較的容易な形態だと考えられる。

各学校（幼稚園）のニーズを受けての活動を行いやすいが、小中学校の連携がしにくいこともある。小中学校に、それぞれ学校運営協議会ができた場合、メンバーの重なりや学校運営協議会どうしのかかわりなどに配慮が必要である。

【「学校独自型」の学校運営協議会でできることは、次のようなものである。】

- ・学校に必要なボランティアを組織する。
- ・学校の教育活動の承認と改善 など



【学校評価の視点】→教育目標, 教育環境整備

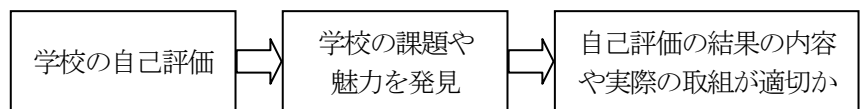
- ・児童生徒や学校の実態, 保護者や地域住民の意見や要望を踏まえた学校としての目標等の設定の状況
- ・施設・設備の活用状況 など

5 学校関係者評価

(1) 課題・魅力発見型

学校の自己評価をもとに、学校の課題や魅力を発見する学校関係者評価である。学校の課題だけでなく魅力も見つけていくことにより、学校を大切にしたいという気持ちが共有される。

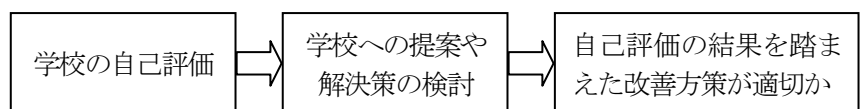
学校の課題や魅力を発見することにより、学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか、また実際の取組が適切かどうかを評価することができると考えている。



(2) 提案・解決型

学校の自己評価をもとに、学校の改善に向けて何らかの提案を行い、共に解決していくところまで発展する学校関係者評価である。

学校に提案したり、学校の解決策を検討したりすることにより、



学校が行った自己評価の結果を踏まえた改善策が適切かどうか評価することができると考えている。さらに、学校関係者評価を受けて、学校運営協議会が主体的に、課題の解決に向かっていくように進めたい。

6 現在のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度） ～類型間のかけ合わせ～ （一部）

(1) 児童生徒の育成型 × ボランティア活用型 × 小中一貫・連携型 × 学校関係者評価

学校支援地域本部事業を発展させて学校運営協議会を設置しようとした場合、この形式になる。児童生徒のどのような資質・能力を伸ばしていこうとするのかによって、ボランティアの位置づけが変わってくる。

(2) 児童生徒の育成型 × ボランティア活用型 × 学校独自型 × 学校関係者評価

京都市では、この形式が多く見られる。地域の力を、直接学校に生かしていきやすいからだと考えている。放課後子ども教室推進事業を発展させて学校運営協議会を設置しようとした場合、この形になる。

(3) 地域・学校連携型 × 学校評議員ベース型 × 学校独自型 × 学校関係者評価

学校運営面での活動を重視して学校運営協議会を設置しようとした場合、この形式になる。子どもの教育との関係を、常に明確にしておくことが課題となる。

7 これからのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度） ～類型間の組み合わせ～

(1) 学校運営協議会の「テーマ」 地域・学校連携型 + 児童生徒の育成型

地域・学校が連携することが、児童生徒の育成につながるというのは、よくあることなので、この組み合わせはつくりやすい。ただ、地域連携と児童生徒の育成のかかわりを明確にしておかないと、ただ言葉だけで結びつけただけになってしまう。

(2) 学校運営協議会の「組織編成」 学校評議員ベース型 + ボランティア活用型

学校支援ボランティアの代表と、学校評議員とを合わせて、学校運営協議会を組織するものである。これは、最初の仕組みづくりで意図的に行っておかないと、後では追加しにくい。学校運営協議会設置までに考えておきたい。

(3) 学校運営協議会の「構成単位」 小中一貫・連携型 + 学校独自型

中学校区で連携する学校運営協議会と各学校独自の学校運営協議会を、場合に応じて接続・一体化させるものである。各学校の学校運営協議会から委員を出して、1つの学校運営協議会をつくるようなことも考えられる。京都市でも、この方向を目指すことが増えてきている。

(4) 学校関係者評価 課題・魅力発見型 + 提案・解決型

自己評価を受けての学校関係者評価を「課題・魅力発見」で終わらせず、「提案・解決」まで発展させていくものである。学校関係者評価の主な目的は、学校の自己評価に基づいて出された解決方法について、適切かどうか評価することだが、学校関係者が提案・解決にも積極的にかかわることを目指したい。